



年 組 ()

「3時になったら、教室へもどります。帰りの会をしますからね。では、清掃活動に取り組みましょう。」

先生の合図を受けて、それぞれの分担のそうじ場所に向かった。ミエたちは、プールの清掃活動に取り組んだ。前の夏に使ってから、1年間も置いてあるものだから、よごれ具合はなかなかひどい。

洗剤をかけて、デッキブラシでよごれを落として、水で洗い流す。ミエたちは、高学年として、みんなが気持ちよく使えるように丁寧にそうじの活動に取り組んだ。

時刻は3時になった。あっという間だった。

ミエは、ほかの友達に呼びかけた。

「みんな、もうもどろうよ。3時だよ。」

みんなは、作業の手を止めなかった。

「でも、あと少しで終わるんだ。やりきってしまおうよ。」

「それはそうなんだけど——、決まった時間なんだよ。」

「時間くらい、なんとかなるよ。」

「ダメだよ。すぐに下校時刻だし、教室で私たちがもどってくるのを、教室のみんなは待っているんだよ。」

「ミエがそう思うのなら、ミエ1人でもどちなよ。私たちは、



続けるから。」

そう言って、みんなは清掃をやり続けた。

ミエは、どうすればいいのかわからなくなってしまった。

ミエは、教室にもどるべきでしょうか。それとも、清掃を続けるべきでしょうか。あなたの考えと理由を書きましょう。

.....
.....

話し合っ考えたことを書きましょう。

.....
.....